児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6　年　2　月　15　日　　事業所名　　チャイルドハートたいよう

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		適切な広さを確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	6		保育士・指導員・看護師を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		施設内はバリアフリーとなっており、視覚表示は個別に対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		清潔に心掛け子どもの活動に応じた空間になるよう心がけている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		日々、職員間で共有・反省・改善出来るように努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者向け評価を実施、その内容を共有し話し合い業務改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		毎年ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		第三者による評価は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		県の研修、療育支援センターの研修に加え、チャイルドハートの人材育成研修に参加している。	
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		面談を行い保護者のニーズや課題を盛り込んだ計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		標準化されたアセスメントツールで状況を把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		支援に必要な項目を選択し具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		個別支援計画に沿った支援を工夫しながら行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		季節・月・日々の活動プログラムを立案し行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		固定化しないように担当を交代して工夫している。	

の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		子どもに応じて個別活動と集団活動を組み合わせて計画している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	送迎の都合上、不足している事があるが、時間を見て話し合いをしながら日々の業務をおこなっている。イベント前には必ず打ち合わせをおこなっている。	送迎の関係で出来ない職員にはその都度情報共有を行う。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	6		送迎の関係で不足している事があるが、必ず支援の振り返りを行い、気づいた点や情報の共有を行っている。	勤務の都合で出来ない職員には翌日情報共有を行う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録を徹底し支援の検証改善に努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的にモニタリングを行い支援会議で計画の見直し等話し合っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		主に児童発達支援管理責任者が参加して情報共有を行っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		児童発達支援管理責任者が参加可能な子育て支援の会に参加し、関係機関との連携をとれるようにしている。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		6	該当なし	
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		6	該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		保育園での様子や支援内容など園へ訪問し情報共有・支援の方向性など話し合っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		6	今年は該当者なし	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		6	今年度、児童発達支援センターの研修に申し込んだが定員いっぱいで参加できなかったが、本部で行われる研修に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6		外出イベントなどを通じて障害の無い子どもとの関わりを持てるように工夫している。	事業所の活動として交流の機会は無いが、利用者全員が保育園・幼稚園に在籍しており日常的に障害の無い子どもと活動出来ている。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6		地域の子育て会議（子どもの健康を考える会）に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時・連絡帳・電話等で伝えあっている。	

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）の支援を行っている	6		令和5年10月～12月ペアレントプログラム実施した。 参加された保護者様から子育ての参考になったとお聞きしたので良かった。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に説明を行っており、利用者負担については見学時にも説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		計画を示しながら支援内容を説明し保護者様から同意を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		定期的に面談を行い助言等の支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		毎年保護者会を行っている。	ペアレントプログラムを通じて保護者同士の連携が支援できればと考えております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		いつでも相談・申入れができるように関係作りを行っており迅速に対応できるよう心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		毎月のお便り、ホームページのブログ、インスタグラムで活動内容を発信している。 自己評価はホームページにて記載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		十分注意しております。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		カードや視覚表示を用い意思の疎通を図っている。連絡帳を活用して情報伝達を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	地域住民の招待は行っていないが、地域のボランティアの方を受け入れ様々な活動を行っている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		マニュアル作成行っている。 保護者様へたいようの防災計画を配布し訓練も実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		地震・水害・原発・火災を想定し年4回避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		てんかん発作の子どもには、学校、主治医、保護者と対応の方法等の確認をとっている。 情報共有し緊急時のマニュアルを作成している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		6	該当なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット・事故報告書は作成しミーティング時に共有し再発防止に努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		年2回の研修受講済み。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		6	該当なし	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6　年　2　月　15　日　　事業所名　　チャイルドハートたいよう

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			適切な広さを確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	6			保育士2名・児童指導員2名・言語聴覚士を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			施設内はバリアフリーとなっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			日々、職員間で共有・反省・改善出来るように努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者向け評価を実施、その内容を共有し話し合い業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			毎年ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6		第三者による評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			県の研修、外部研修、療育支援センターの研修に加え、チャイルドハートの人材育成研修に参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			面談を行い保護者のニーズや課題を盛り込んだ計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			標準化されたアセスメントツールで状況を把握している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			イベントや日々の活動プログラムを立案し、話し合いながら行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			固定化しないように担当を交代して工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			長期休暇は公共施設への外出、イベント参加、クッキング、水遊び、季節に応じたイベントを設定し支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもに応じて個別性と集団性を組み合わせて計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			送迎の都合上、不足している事があるが、時間を見て話し合いをしながら日々の業務をおこなっている。 イベント前には必ず打ち合わせを行っている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	6			必ず支援の振り返りを行い、気づいた点や情報の共有を行っている。 勤務時間の都合で出来ない職員には翌日情報共有を行う。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			記録を徹底し支援の検証改善に努めている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的にモニタリングを行い支援会議で計画の見直し等話し合っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6			ガイドラインに沿って支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			主に児童発達支援管理責任者が参加して情報共有を行っている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			学校との情報共有は送迎時や個別に時間を設けて行っている。そこで得た情報はスタッフで共有し保護者様へもお伝えしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			6	該当なし	該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			児童発達支援事業所から情報提供を受け必要に応じて保育園等へ伺い支援の参考に努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			6	今年度の該当なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		6		今年度、児童発達支援センターの研修に申し込んだが定員いっぱいで参加できなかったが、本部で行われる研修に参加している。	外部の発達臨床支援セミナーに参加し心理学の立場からの保護者支援の研修に参加した。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		外出イベントなどを通して障がいの無い子どもとの交流の機会を持てるように工夫しています。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6			児童発達支援管理責任者が積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時・連絡帳・電話等で伝えあっている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	6			令和5年10月～12月に事業所においてペアレントプログラムを行った。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に説明を行っている。利用者負担については見学時にも説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			定期的に面談を行い助言等の支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			毎年保護者会を行っている。	ペアレントプログラムを通じて保護者同士の連携が支援できればと考えております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			いつでも相談・申入れができるように関係作りを行っており迅速に対応できるよう心がけている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月お便りを配布しホームページ、ブログ、インスタグラムにて発信しています。行事の予定は利用希望やお便りにて発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			十分注意しております。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			カードや視覚表示を用い意思の疎通を図っている。連絡帳を活用して情報伝達を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		地域住民の招待は行っていないが、地域のボランティアの方を受け入れ様々な活動を行っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			委員会の設置、マニュアル作成行い、保護者様へたいようの防災計画を配布し訓練も実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			地震・水害・原発・火災を想定し年4回避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			年2回のアンケート実施、研修受講している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			6	該当なし	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			6	該当なし	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ヒヤリハット・事故報告書は作成しミーティング時に共有し再発防止に努めている。	年に一度はヒヤリハット、事故の検討会を実施している。